

令和2年度 第1回
鴨川市スポーツを通じた地域振興推進委員会

日 時 令和2年10月19日（月）午後2時00分から

会 場 鴨川市文化体育館2階会議室

出席委員 花山藤太郎・山下洋介・鈴木健史・島田誠一・刈込信道・川井幹雄・
渡辺淳一・清水宣雄・江羅茂・亀田美穂・佐藤翔太・瀬戸川賢二

事務局 小柴副市長・鈴木スポーツ振興課長・鈴木課長補佐・吉田係長・山本副主
査・スポーツを通じた地域振興庁内プロジェクトチーム・（一社）ウェルネ
スポーツ鴨川 岡野ほかスタッフ、小野地域おこし協力隊員、玉木地域おこ
し協力隊員

1. 開 会

2. 委任状交付

3. 副市長挨拶

4. 議 件

- （1）令和2年度スポーツコミッション事業の進捗状況について
- （2）その他

5. 意見交換

6. 閉 会

1. 開 会

○司会 皆さん、こんにちは。ご案内をさせていただきました時間となりましたので、ただいまから、【令和2年度 鴨川市スポーツを通じた地域振興推進委員会】を開催させていただきます。私は、本日の司会進行を務めさせていただきます、鴨川市建設経済部スポーツ振興課の鈴木と申します。どうぞ、よろしくお願いいたします。なお、本日はコロナウィルス対策といたしまして、ご発言の際はマスク着用のままでお願いいたします。

会議に先立ちまして、会議資料の確認をさせていただきます。本日の資料は、「会議次第」、「委員名簿」「設置要綱」「会議資料」、「パンフレット3種類」、加えて、新たに、スポーツを通じた地域振興推進委員会委員に就任される方には、「委員就任の承諾書」、委員報酬等の「口座振込依頼書」を配付させていただきますいております。以上でございます。配付漏れはございませんか。

また、本日の会議でございますが、附属機関等の会議の公開に関する実施要領により、公開で行うとされております。つきましては、本日の会議の傍聴についてお許しいただきますとともに、会議録を作成するため録音させていただきますと存じます。なお、会議録につきましては、個人情報等を除いた概要版を公開することとさせていただきますと存じます。よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

2. 委嘱状交付

○司会 続きまして、次第の第2になりますが、まず、団体役職者の交代等に伴いまして、新たに推進委員になられます方に、副市長から委嘱状の交付をさせていただきます。どうぞ自席にてお受け取りください。

〔委嘱状交付〕

3. 副市長挨拶

○司会 続きまして、次第の3になりますが、小柴副市長からご挨拶を申し上げます。

○副市長（小柴祥司君） 皆様、こんにちは。ご紹介をいただきました、副市長の小柴です。本来であれば亀田市長がご挨拶申し上げるべきところですが、公務が重なり出席が叶いません。皆様にくれぐれもよろしくとのことで、あいさつを預かって参りましたので代読いたします。本日は、「令和2年度 スポーツを通じた地域振興推進委員会」を開催しましたところ、多数のご出席をいただき、誠にありがとうございます。皆様には日頃から、市政の伸展に多大

なご支援、ご協力を賜っておりますこと、重ねてお礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の影響により、東京オリンピック・パラリンピックの延期をはじめ、多くの大会が中止を余儀なくされるなど、スポーツを取り巻く環境は、大変、厳しい状況にあります。その一方、プロ野球やＪリーグを皮切りに、規模を縮小しつつも感染防止対策を図りながら、徐々に再開する動きが広がっております。加えて、コロナウイルスとスポーツの共生をめざし、ウォーキングやサイクリング、ハイキングなど、アウトドアでのスポーツ活動が、益々注目を集めております。

本市におきましても、総合運動施設を中心に、多くの人々が来訪するきっかけとなっているスポーツを、市の重要な産業の一つと位置づけ、スポーツコミッション「一般社団法人・ウェルネススポーツ鴨川」を中心に、稼ぐ力の強化に取り組んでおります。取り分け、市内の海や山、農産物など地域資源とスポーツを掛け合わせた、様々なアクティビティの実施、交流プログラム、モニターツアーを通じた商品づくりは、今後大きな需要が期待できると見込んでおります。

この後、事務局より、これまでの進捗や今後の取り組みについて報告させていただきますので、皆様には、専門的な知識やご経験、多角的な視点から、忌憚のないご意見、ご提言を賜りますようお願い申し上げ、お礼のあいさつといたします。令和２年１０月１９日 鴨川市長 亀田郁夫 代読

本日は、誠にありがとうございます。

４．議 件

○司会 さて、議件に入ります前に、この推進委員会の振り返りでございますが、ご案内のとおり、市では、市内外からの交流人口の増加をめざし、スポーツを市内産業のひとつとして位置づけたうえで、地域資源と連携させつつ、地域振興を進めていこうという施策を打ち出しております。

これを実現するために、平成３０年度から、「まちひとしごと創生総合戦略」に基づく地方創生推進交付金事業として「スポーツを通じた地域の稼ぐ力推進事業」をスタートし、令和２年度までの３カ年事業で実施しており、この事業内容につきまして、皆様には様々なお立場から、ご協議をいただいているものです。

平成３０年度は、主には「スポーツを通じた地域振興基本計画」の策定に取り組み、専門的、官民の横断的組織であるスポーツコミッション組織設立についての方針を示されたところでした。

２年目の令和元年度は、この計画に基づきスポーツコミッション「一般社団法人 ウェルネススポーツ鴨川」の設立を推進し、このなかで、スポーツと地域資源を活かした、様々な事業を実施しました。その、一部を申し上げますと、砂浜を活用しようと、城崎海岸において、主に市外からの大人を対象に、穴掘りゲーム、

フットゴルフといったアクティビティを実施してみたり、自転車を使って里山を巡りながら、ミカン狩りや炭焼き、イチゴ狩りなど農家などにも立ち寄って、地域の景色や産物に触れてもらうツアーを行ったり、旅行会社の展開するツアーの中で、スポーツ草刈りという形で競技的な要素を加えた草刈りを実施しました。

そして、3年目の今年度は、昨年度得られた経験や反省をもとに、事業を取捨選択し、地域的にも資金的にも、ウェルネススポーツ鴨川と市の両方の好循環が可能なシステムの構築といった事をめざし、有効なメニューの磨き上げや深掘りといったことを進めております。詳しくは、このあと説明をさせていただきますが、以上がこれまでの振り返りとなります。

前置きが長くなりましたが、次第の4の議件に移らせていただきたいと存じます。以後の議事進行は、委員長をお願いしております、花山藤太郎委員に一括し、お願いしたいと存じますが、宜しいでしょうか？

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○花山委員長 それでは、ただ今から議長を務めさせていただきますので、委員の皆様のご協力をお願いします。はじめに、本日の会議録の確認をしていただく委員を決めさせていただきたいと思いますが、その方法は、私から指名させていただくことでよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○花山委員長 はい。ありがとうございます。それでは会議録の確認について、本日は、鴨川市商工会 島田 誠一（しまだ せいいち）委員を指名させていただきたいと思います。

次に、議事に移ります。本日の議事につきましては、予めお手元にお配りしてございます会議次第に沿いまして、進めさせていただきたいのでご了承承願います。

（１）令和２年度スポーツコミッション事業の進捗状況について

○花山委員長 議件の（１）令和２年度スポーツコミッション事業の進捗状況についてを、議題といたします。事務局より説明をお願いいたします。

○事務局・鈴木 はい。ここからは、本年度の事業を一括して委託しております、一般社団法人・ウェルネススポーツ鴨川・岡野から説明をさせていただきます。

〔配付資料及びプロジェクター投影画面により説明〕

○事務局・岡野 皆様、改めまして、こんにちは。一般社団法人ウェルネススポーツ鴨川の事務局を務めている岡野です。よろしくお願いいたします。

今日、皆さんに配付した、上半期レポートという中綴じになっている資料がございますが、基本的にこちらに則ってご説明させていただきます。それと、今スポーツコミッションで展開しております地域の健康づくり、こちらは主にジュニア向けのものになりますが、ウェルkamoスクールという1枚のカラーのチラシです。それと、11月1日から14日の期間で行いますロゲイニング、これは自転車のオリエンテーリングと考えていただければ一番わかりやすいかと思いますが、そのイベントのチラシ、それと、ウェルネススポーツ鴨川、地域コミッションの活動をより多くの方々に、特に市民に知っていただくということで、こちら2つ折になっていますウェルkamo通信という、7月に発行して、学校全児童生徒に配布しております広報誌です。これらをテキストということで今日配付をさせていただいておりますので、後でご覧になっていただければと思います。

それでは、こちらの上半期レポートの資料に則りまして、あと画面を使いましてご説明させていただければと思いますので、画面を見ながら報告をお聞きいただければと思います。

今、課長補佐のほうからもお話ありましたが、まず最初に、一昨年度、昨年度の振り返りということで、私からも簡単に振り返りたいと思います。まず、一昨年度、2018年度ですが、鴨川市により「スポーツを通じた地域振興基本計画」というものを策定いたしました。その中で鴨川版の地域スポーツコミッションの必要性ということを言及いただいております。その計画に則りまして、2019年3月22日に一般社団法人ウェルネススポーツ鴨川が設立されました。

その中のビジョンですが、一言で言うならば、「ウェルネスシティ鴨川」の実現を目指そうということで、ただし、このウェルネスという言葉に定義に、人々の心身の健康とともに、地域が健康・幸福であるということをつかみまして、そういったものが両立する鴨川市を目指していこうということで活動を開始しているところであります。

目標としては、具体的に、新しい産業、ここではスポーツ産業、またスポーツにまつわる産業、そういったことをご理解いただければと思います。そして、それに伴う雇用の創出、また市民においては健康で質の高い生活を実現していこうということで、最終的には移住促進、人口流出の抑制、また新しい鴨川ブランドイメージの創出、その結果、持続可能な地域社会をつくっていこうということで、そういったところを目指して地域スポーツコミッションは活動しております。

昨年度、この推進委員会でも述べましたが、2020年度、今年度以降への課題ということで、6つを挙げました。一つは、昨年の台風、また現在進行中であります新型コロナウイルスの感染拡大、そういった今まで考えられない想定外というものを想定してこれからの事業を設計していかなければならないということを2019年度は痛感したということです。

さらに、地域スポーツコミッションというのは、収益性の高い事業、公益性の高い事業、両方をやっていかなければならないということで、また後で述べますけれども、それをきちんと分別をして、そして持続可能な収入のバランスを取っていかなければならない。

また、収益事業においては、プログラム・商品というものを造成していく必要がある。この総合運動施設の指定管理者制度導入についても、我々も検討に加わっていく。そして、今、活動しているのを、市民一般の皆さんが知らなければ意味がありませんで、やはり認知度・理解度を向上していかなければならない。

それも、我々だけ単独でやるのではなく、地域の人材の発掘・登用、また既にあります市内各種団体との連携をして事業を進めていく。こういったことを本年度以降への課題、テーマとして昨年まとめさせていただいたところであります。そのところがこのレポートで言いますと、2ページ目、3ページ目で述べられているところです。

本年度の実施事業につきまして、現在の進捗、また今後の検討についてご報告をさせていただきます。資料では4ページのところに入っております。

まず2020年度の実施事業ですが、一つは、昨年、一昨年来、進めてきております地方創生推進交付金事業ということで、こちらから2020年度は最終年度となります。大きく2つ、大会合宿誘致事業、集客システム構築事業というものを、この地域スポーツコミッションで進めていくところです。

また、昨年からですが、地域おこし協力隊と連携した事業も積極的に行っておりまして、小野隊員に加えて今年は6月に玉木隊員を新たに委嘱させていただいたところです。

そして、今年の新しい事業としては、スポーツ庁、スポーツによるまちづくり・地域活性化活動支援事業、こちらは100%定額補助事業であります。こちらは全国に募集しましたところ、採択を受けまして、テーマとしてはサイクルツーリズムの推進を今年のテーマとして進めております。ただし、これは単年度事業ですので、本年度内に全て収まる事業ということになります。

今年ですけれども、4つのフェーズに分けて事業を実施しております。この資料で申しますと、5ページ目になります。これは皆さんもご承知のとおり、新型コロナウイルスの関係もありますので、その状況を踏まえて、今年の4月に地域スポーツコミッション内部でも作成をして、こんなスケジュール感で今年はやっていくことになりそうということで、恐らくほぼその予想どおりの流れになってきているのですが、まず第1フェーズということで、4月から5月、緊急事態宣言が発令されている最中はなかなか対外的な事業というのがほとんどできませんでしたので、この2カ月間を使って本年度以降、特に本年度入念な計画を推進していこうということで、ただし、対外向けにはオンライントレーニングというものを試しに実施をさせていただいております。親子、高校生向けに行いました。

また、皆さん、文化体育館のロビーに、ちょっとずつ測定器を置いてあるのにお気づきの方もいらっしゃると思いますが、この総合運動施設の利用促進の一環として、文化体育館ロビーに健康スポーツ、測定コーナーですとか、簡単にアトラクションが体験できるようなコーナーを今整備を進めているところです。

続いて第2フェーズ、6月から8月、恐らく外出自粛が緩和されるだろうということで、我々関係者ですとか、あとは地域のローカルの方々を対象にした事業実施を徐々に進めようということで計画をいたしました。

そして、今まさに第3フェーズにあり、9月から12月の辺では、恐らくwithコロナの時代になっていくだろうということで、県内・関東圏、GoToが行われておりますが、近隣

の地域の方々を対象にモニターツアーの実施ですとか、先ほどチラシでも皆さんにお配りした、ロゲイニングイベントの開催ですとか、そういったものを、ようやく対外向けの事業を再開していくというフェーズになります。

そして、年明けの1月から3月、これは今後どうなっていくのかわかりませんが、新しい日常というテーマで、いよいよ全国、また外から呼ぶのは、まだまだ厳しい状況が続くと思いますので、在日駐日の外国人の方々を対象に行えるようなこういったツアーを実施したりですとか、また、実際にその制度としてウェルネススポーツ鴨川の理想を図る意味で通年型、常設型のツアー・プログラムをいよいよ商品を作って販売していこうというような4つのフェーズに分けて今年は事業を推進しております。

資料をめくっていただいて、上半期の事業報告ということで、各種事業について報告をさせていただきます。

まず大会・合宿誘致事業につきましては、2020東京オリパラの海外女子サッカー代表チームの事前キャンプ誘致ですが、具体的に国名は書いておりませんが、海外強豪の女子サッカー代表チーム、こちらは2020年度に内定しておりました。しかし、2020東京オリパラが延期になったことで、どうなるかということもあったのですけれども、一応サッカー代表チームの関係者からは2021年開催においても鴨川市での事前キャンプはお願いしますということで内定の連絡を受けております。

ただし、今、政府・大会組織委員会で協議中なのですけれども、事前キャンプ地にも大会試合会場、また選手村に準拠した新型コロナウイルス対策が求められるということで、今いろいろな会議が中央でも行われておりますが、その情報収集に努めているところです。

それによってはかなり制限とか、そういったものが出てくるとと思いますので、それにかかわる宿泊施設の方ですとか、こちらのスポーツ施設、そういったものも含めて対応していかなければならないということになるかと思います。

そして、これで終わりではなく、開催後に向けて対象国・鴨川市のまずは民間の交流、遠征というものを思いつつ、並行で計画しております。例えば女子サッカーでしたらオルカ鴨川FCにも関係していただいての女子サッカー交流ですとか、あるいはオランダでは、スポーツコミッション先進地ではありますので、このスポーツコミッション同士の連携というものを模索しているところです。

続いて、マリン・ビーチスポーツ大会・合宿誘致に特にも力を入れております。皆さんご承知かわかりませんが、文理開成高校が今年の4月から鴨川令徳高校に校名が変わりまして、そちらに今年の5月、ビーチサッカーの1面分が取れる、約40メートル掛ける30メートルほどのビーチコートが出来上がりました。

学校と我々スポーツコミッションのほうで連携をいたしまして、実際に出来上がってから2カ月後に、これはかなり大きな競技大会になるのですが、JFAの第15回全日本ビーチサッカー大会の関東大会が既に7月25日、26日に行われております。こちらは無観客でしたので、ちょっと宣伝は差し控えた部分もあって、市民の方々は余り知らないかもしれませんが、日本のビーチサッカーというのは、実は世界でレベルが高くて、昨年のワールドカップではベスト4になっております。

実はここにきて、まだビーチサッカーのワールドカップは数回しか行われていないのですが、日本は既にベスト4、2回記録しております。ビーチスポーツでは、男子のカテゴ

リーでは、優勝に近いスポーツであると言われておりまして、この大会にも日本代表選手が何人も参加している。ワールドクラスの大会が鴨川では歴史上初めてビーチサッカー大会が、完成してから2カ月後に誘致が行われております。

つい先日になりますが、10月18日、同じレベルの選手たちが参加している2020関東ビーチサッカーリーグ、こちらは男子ですが、こちらも行われました。また、9月6日、10月11日には女子版の関東女子ビーチサッカーリーグが鴨川令徳ビーチコートで開催されております。また、こういう環境がなかなか関東にも少ないということで、9月、10月にはBSC川崎というビーチサッカーのリーグに所属しているチームが鴨川で2回宿泊の合宿を行っております。

このように、ビーチスポーツ専用コートというのは、全国的にほとんどないのが実情でして、ほとんどが海岸とかでやるのですが、海岸でやると、ご存じのように非常に苦労いたします。なぜかと言うと、素足でやりますので、まずビーチクリーニングから始まらなければいけない。そして、重機を入れて砂を掻き回したりという作業が出てきますので、そういった意味では専用のスポーツ用のビーチコートができたというのは全国的にも有名な話になっておりまして、しかも高校が整備したのは日本ではここだけです。

そういうことで恐らくこれから定期的にかなり大きなレベルの大会が誘致される。ビーチサッカーだけでなく、ビーチテニスですとか、ビーチバレーのお話も来ていますので、そういった競技の合宿、全日本クラスの合宿会場としても使われていくのではないかと考えております。

そして、この地域の方々にもビーチの魅力、特に鴨川のビーチというのは地域の一つの大切な自然の資源でありますので、それを活用したスポーツを知っていただくということで、日本の女子ビーチサッカーチーム、私も関係しておりますが、そちらと連携しての定期的な体験会、毎週行っておりまして、地域の方々が徐々に参加しております。また、この後11月29日にはミニ大会を高校とも連携して開催を予定しております。

また、先ほど出たビーチテニスを8月に鴨川令徳高等学校が主催して体験会を行っておりまして、こちらに我々スタッフも参加をさせていただいております。このような取り組みがなされております。

次の写真ですが、これが鴨川令徳高校の校庭で、イベントで使っていた場所ですが、このようにビーチコートが整備されております。これは関東大会の様子です。これは女子のリーグです。写っている方が実は元オルカの選手です。このように、地域スポーツコミッション受け入れに協力させていただいていただきました。

これはビーチテニスの写真です。ビーチテニスの体験会の様子になります。実は今夜もありますけれども、毎週月曜日夜に地域の方々の自由参加の体験会も実施しておりまして、夜間照明も自前でつけたのですが、夜、社会人の方々も参加できるような環境を高校と連携してつくって、徐々にですが、ビーチスポーツの魅力を地域の方々にも理解していただくという取り組みも行っております。

続いて、その他の大会・合宿誘致ですが、今年はコロナの関係もありまして、実は、なかなか厳しい状況ではあるのですが、8月8日から10日までラグビーのジュニアスクールが鴨川で宿泊での合宿を行っております。こちら、鴨川の環境を非常に気に入っていた

きまして、亀田医療大学さんにもご協力いただいて、グラウンドを使わせていただいたのですが、今後もラグビーのジュニアスクールで年に1回と言わず2回とか、それぐらいの頻度で鴨川でやらせていただきたいと、ありがたい声をいただいております。

また、昨年は台風で中止になってしまったのですが、1日、雨で延期になって、10月11日、12日の2日間、全日本女子硬式クラブ野球選手権大会が鴨川で開催されました。そのときの写真ですが、これは始球式の写真で、無事開催ができました。我々としては運営補助のご協力と、あと地域賞ということで、大会の選手の方々全員にプレゼントさせていただきました。

続いて、大会合宿では、今度は集客システム構築の進捗状況についてご報告をさせていただきます。

まず、施設の利活用に関しましては、昨年度に引き続きましてスポーツ振興課と連携して、この施設の将来像、そしていよいよ指定管理者制度導入を目途として検討を開始しております。現在のところ、今請け負っているスポーツ振興課の業務を皆さんで振り分けのシミュレーションいたしました。また、今後の将来像、そういったものを見極めながら、果たしてどんな方々にこの施設を運用していただくのが一番良いのかということで、ここはいろんな民間事業者の方々のサウンディング調査をこれからやっていくというところで、1社やったのですが、こちら複数社を今考えております。

さらに、この施設にスポーツ機能だけではない機能というものを我々も考えておりまして、通常この指定管理者制度においてはスポーツメーカーとか、そういった方々が当たることが多いのですが、我々はその枠を取り払いまして、例えば観光商業系に強い会社ですとか、そういったところも候補に、かなり幅広い候補というものを、皆さん、柔軟な形で考えていきたいということで、今、サウンディング調査を進めているところであります。

後は、先ほど申し上げたように、体育館ロビーをイメージアップしていこうということで、ウェルkamoコーナーと呼びますが、その設置・充実をこれから図っていくところです。

続いて、先ほどの事と重なりますが、マリン・ビーチスポーツの振興というの、集客システムでも考えておりまして、先ほど大会・合宿でも申し上げたような誘致活動のほか、市民の理解の醸成ですとか、ビーチスポーツ・アクティビティの普及活動、また、これは別事業で揃えたものですが、団体向けのサーフィン体験プログラムを展開しようということで、市が所有しているサーフィンのボードですとかウエットスーツの管理契約を、市とスポーツコミッションと結ばせていただいております。

今、令徳高校さんと調整しておりまして、柔軟に使えるような環境をまずつくって、それとは別に人為的体制では、鴨川サーフィングクラブとのネゴシエーションは済んでおりますので、サーフィングクラブさんの協力をいただきながら、特に各ショット、単独では、今までお断りしていた大人数、例えば6、7人以上とか、10人とか、学校帰りとか、そういった方々のサーフィン体験プログラムをしっかりとこのシステムを使って、サーフィングクラブさん、各職と連携して受けていこうということで、今後サーフィンを考え、アフターコロナと言うか、コロナの落ち着いたころを狙って、体験会をこれから整えていくところでございます。

続いて、ウェルkamoと我々は呼んでおります地域ウェルネス推進事業、地域の健康増進事業を重点的に展開したい、構わないと思いますが、ウェルネスシティ鴨川を目指す上で

基礎になるのは地域住民の心身の健康であるということを位置づけまして、今ジュニア世代、未来世代と我々は呼んでおりますが、子供たち、働き盛り世代、ちょうど私たちの世代ですが、そしてシニア世代、その3世代に向けたアプローチを今それぞれ戦略的に考えているところです。

ジュニア世代においては、先ほどチラシをお配りしたウエルkamoのスクールですとか、これから鴨川令徳ビーチコートとか、砂浜を活用してマルチビーチスポーツ教室ということで、いろいろなビーチスポーツを取り入れながら、砂遊びから子供たちに親しんでいたくような企画を考えているところです。

このウエルkamoスクールというのは、スポーツ少年団、青少年チームまたは親子でもいいのですが、そういった方々向けに運動能力とかそういったものを測定会を行いまして、数値的に出ます。それを元に、地域おこし協力隊の玉木君ですとか、そういった専門知識を持った人たちがアドバイスをするということです。

例えば、ラグビーのジュニアチーム受入ですとか、そういったところでも行ってまして、11月1日の広報かもがわでも出るのですが、その前に5、6件ぐらいご登録いただき、かなり反響が出始めております。これは将来的にはこれをどういうふうにウエルネススポーツ鴨川の収益事業にも持っていけそうな気もしますので、今後、膨らむ事業となろうかと思っています。

あと、働き盛り世代につきましては、6月に商工会の理事会にお邪魔させていただいて、そこで実際にどういった測定ができるのかですとか、アドバイスの体験をしていただきました。その結果、その理事会に出られた方の企業から、ぜひうちでもやってほしいということで、試験的に初め、また、ここから口込みですとかで広がりまして、今、何社かモニターでこれから実施していこうということで、こちらも将来的には、例えば毎月の実施に対してきちんと費用をいただいて、一つの事業としても、市内または周辺地域含めて展開していければということで考えています。

シニア世代につきましては、コロナで活動ができていないのですが、みんなみの里・各地区の体育館で高齢者の方々が集まって運動とかをされていたということもありますので、そういったところと連携して活動を再開していくお助けをする。

また、今年11月6日に草刈りサミットをやるのですが、それに向けて国際武道大学等の学術機関と連携しまして、草刈りの近接調査とか、まじめに科学的分析を行っておりまして、実は、草刈りは結構、運動効果があるのではないかという結果が得られ始めております。今年、論文でも大学のチームにまとめていただく予定でおります。

そして、ユニバーサルスポーツということで、コロナの影響でイベント的なことはできないのですが、今年度中にシンポジウムを兼ねたブラインドサッカーのミニイベントみたいなことをできないかということで、今ブラインドサッカー協会ともお話をして準備を進め始めているところでございます。

これが先ほど出てきたオンライントレーニングの様子です。ここのようにモニターを通じて子供たち、高校生だと思いますが、指導するようなことを、特に緊急事態宣言中に展開させていただきました。これは子供たちに対する動き方ですとか、測定をしているかと思いますが、その教室の様子です。

これは商工会理事会の測定会です。まだ乗られてない方、1階にInBodyと言って、非

常に高性能な体組成計がありますので、もし宜しければ、今日の帰りにでも乗っていただければと思います。これを商工会のほうに持ち込みまして、結構これも好評を受けました。

これはウェルkamoチャレンジという美姿勢です。いろんな例があつて、チャレンジしよう。例えば姿勢をよくしてみようということで、応募がありまして、その方をご指導している様子です。

続いて、先進地視察ということで我々のほうで先進地の視察をメンバーでさせていただいております。一つは、熊本県菊陽町というところにある「エボレパーク」という、先ほどの令徳ビーチコートと同じような例ですが、地元出身のビーチサッカーの代表選手が民間ベースで、自己資金で建設をして、運営をしているビーチコートの取り組みを視察させていただいております。

また、長柄町をご存じの方もいらっしゃると思いますが、リソルの森という、これはかなり歴史のある場所ですが、国内外チームとか、トップアスリートが活用しているトレーニング・宿泊・飲食・温浴など、多種多様な施設、設備が整ったまさにウェルネスシティの先駆地であります。日帰りで視察をさせていただきました。

「エボレパーク」の写真ですが、これがビーチコートです。熊本空港から車で5分くらい近くにあるコートですが、こういうコートが昨年8月に完成しまして、今回視察をさせていただきました。これをつくられた代表の方にもヒアリングなどをさせていただいております。ここがバーベキューができるようなゾーンでして、ただここは施設ではなく、見に来た人も楽しめる、そういったような工夫もされているところです。

これがリソルの森メディカルトレーニングセンターの写真、一つの建物ですが、これは合宿した方々の寄せ書きとかサインがずっと展示されているのですが、これが新しく改装されたトレーニングルームです。これはほんの一部です。かなりの台数が広い空間に整備されておりました。これは非常に広いつくりになっております。

あと、これは最上階であるトラック、向こう側はプールがあるのですが、こういった充実したトレーニング、これは今これで一つの建物ですが、これ以外にも宿泊棟ですとか、グランピングのゾーンですとか、大きな100メートルぐらいのプールですとかいろんなものがここに整備されています。たしかオルカ鴨川F Cが合宿を1回やっているはず。この視察をさせていただきました。

あと我々のほうでは、多くの市民の方々は我々の存在すら知らない方がいらっしゃると思いますので、積極的に市民いっばいの周知活動、今年度かなり重点的に力を入れてやっております。ホームページとかインターネット、SNSを通じたもの、メールマガジン、そういったもののほかにシーズナルパンフを、体験プログラムのパンフを今つくっているところですが、イメージ重視のパンフレットをつくったり、先ほど皆さんにお配りした市内市民向けのウェルkamo通信、我々の活動記録、広報、そういったものを主に学校に配付したり、あと広報かもがわは毎月1日には必ず記事を載せていただいております。あとKamoZineにも掲載したりとか、なるべく、地域の媒体を使って、まずはとにかく知っていただくということで、徐々に徐々にですけれども、ウェルネススポーツの活動を徐々に市民の方々も知っていったらいいという状況かと思っております。

今日この後やるのですが、当法人・渡辺先生の力をいただいて、観光まちづくりワークショップということでウェルネススポーツ職員ほか、スポーツ振興課、商工観光課職員、ま

た庁内プロジェクトのチームメンバー、プラットフォームの職員、これは有志です。強制ではない、有志で参加してのセミナーの人材育成ということで開催をいたしております。

続いて、地域おこし協力隊事業ですが、今2人の隊員に活躍していただいております。まず1人は昨年从小野幸一隊員、小野さんは、いろんな経験をされていて、サイクルスポーツ、サイクルオリエンテーリングという競技の日本代表のご経験があったりとか、サッカー指導、スポーツの経験のほかに、それまで農業を長年接点を設けられていた部分もあったりとか、鍼灸師の資格を持っていたり、さらに猟銃の資格を持っています。そういったマルチな方ですので、そういったものを組み合わせて、例えばアウトドアツアーの造成ですとか、健康指導もいけますので、そういったところにご協力いただいております。

今年から新たに委嘱させていただいた玉木隊員は、自身がアスレチックトレーナーの資格を持っております。また、ハンドボールの経験をされておりますので、そういったスポーツ経験を活用して、ジュニア世代、働き盛り世代、シニア世代向けの健康事業を中心に活躍していただいているというところになります。

続いて、今年新たに単年度事業としてやっております、スポーツによるまちづくり・地域活性化活動支援事業ですが、まず、少し日付を押さえていただきたいと思います。来年1月30日（土）、31日（日）、房総サイクルサミット2020というのを企画しております、この鴨川総合運動施設を会場として行われる予定です。ここには千葉県、また周辺地域も含めてサイクル事業に取り組まれている官民の団体の方々をお呼びして、まずは各種サイクル事業の情報共有、そして広域連携をうたっていこうということで、それを目標に、目的に行うイベントとなります。そちらの準備を今進め始めているところです。

サイクルツーリズムの推進ということで、先ほどチラシもお配りした鴨川ロゲイニング2020の11月1日から14日までの開催、これはなぜ期間を持たせたかと申しますと、withコロナ時代に1日に集中するようなイベントは難しいだろうということで、2週間、期間分散型、いつでも、しかもある時間帯には定員をつくって、ほどよく来ていただける、平日も含めて、しかもアウトドアですので、感染リスクも低いということで、コロナの時代に対応したやり方で期間のほうをさせていただいたところであります。

民間事業者の方と連携したレンタサイクルの活用、商品造成というのを徐々に進めておりまして、市内幾つか引き合いも来ておりまして、これから試験的にこういったことも進めていきたいと考えております。

また、インバウンド向けツアー商品造成ということで、本当は17日に行う予定だったのですが、ご存じのように冷たい雨の日で、その日は中止にして、10月31日に改めて仕切り直して募集と実施をするところでございます。

あと、ワーケーションですが、休暇と仕事というものを融合させたような新しい過ごし方ということで、その対応の商品造成というものも旅行代理店、そういった方々と連携しながら今模索しているところでございます。

そして、先進地視察ということで、こちらの事業の一環として先日長野県飯山市・長野市・白馬村に行っていました。飯山市では、信州いいやま観光局と言うところになりますが、長野県と新潟県にまたがる9つの自治体が連携してできた観光局があります。これはかなり画期的な事業なんです、そこで展開されたアウトドアツーリズムのセンター、そこを訪問してお話を伺ったのと、これはサイクルと関係ありませんが、長野県で展開さ

れている主に子供向けの健康づくり、運動能力の向上を図った、そういった事業を展開されている。実は国際武道大学出身の先生がこれを展開されて、長野の方なんです、その方のお話を伺って、できればこの地域にそれを我々地域スポーツコミッションとしての委嘱をしていきたいということで、いろいろ参考になる事例を伺ってまいりました。あと、白馬村は、各種サイクルツアーを实际体験しながら視察をしてまいりました。

そのときの写真ですが、これは小布施という、栗で有名な長野市の隣なんです、その小布施のハイウェイオアシスという道の駅にもなっています。「ハイウェイオアシスおぶせ」というのがありまして、そこにクライミングの場所ができたのです。実はもともとこういう施設ではなく、美術館だったのです。そこが運営し切れなくなってしまって、指定管理者を募集したところ、酒蔵さんが手を挙げてこれを作ったのです。酒蔵さんがスポーツクライミングの施設を作ろうということで、これが通りまして、実は美術館がこうなってしまった。現在この場所に年間6,000人集まる。ですので、かなり運営もできているという、かなりおもしろい施設の事例を見てまいりました。

これが新潟の信州いいやま観光局が運営しているアクティビティセンターです。これは飯山駅の中にあります。こういうふうにレンタサイクル、店内はノースフェイスというメーカーと提携して、レンタルもやっております。販売もしております。左の奥にもカウンターも見えます。あそこがツアーリズムという、そこで体験ツアーを申し込んで参加することができる。その日に申し込めば可能です。現在ではインフォメーションもあったりですか、雰囲気づくりを含めて見習うべき事例であると思います。

この飯山駅の2階にある、コンコースにある椅子に飯山小学校という文字をご覧になれるかと思いますが、その椅子は地元の間伐材を使って、ワークショップで子供たちが作った椅子だそうです。これは实际作ったときの写真とかも展示されていて、ですので、例えば鴨川の総合運動施設をこれから環境整備をしていく際に、専門業者の方にやっていただくところもあるのですが、こういう椅子とかを地域の子供たちがワークショップでつくってやることで、その場所に愛着が沸く、親を連れていくかもしれないし、そういった取り組みは非常にお金がかかりませんし、参考になると思いました。

白馬村のマウンテンバイク、初心者向けのツアーでこういったオフロードを、ガイドがついて2時間か3時間くらいのツアーなんです、巡っていく、もっとゆっくりとした、走る距離もそんなに長くないツアーです。このツアーで感じたのは、参加費は幾らかと言うと、1人8,000円です。結構な値段ですね。

ですから、我々5人ですから、それだけで4万円の売り上げになる。4万円で何があるかと言うと、マウンテンバイク、一つの例です。あとガイドなんです。それだけだと。あと特別な場所に呼ぶのではなく、観光スポットで、ここはすごい観光名所ですよ、そこに寄ってねと、このように鴨川にもあるような、長閑な道をひたすら走って、神明神社より小さい神社に、無人の神社に立ち寄って、天然の杉、大きなご神木があるんですよとか、そんな感じのツアーです。

ですから、サイクルツアー、いろんなところを体験して思うのは、決して目立つようなすごいところに寄らなくていいんですね。こういうレールの中を走るだけで十分満足してしまう。しかもそれが8,000円取るんです。相当大的な金額だと思います。

コロナでどうですかということをこの方に伺ったのですが、何と4月、5月は全くツア

一をやらなかったそうです。緊急事態宣言中なので。ところが緊急事態宣言が終わってから忙しくなって、それまでよりもお客さん、増えたと言っていました。客層もかなり広くなったということで、これは今のコロナ禍においては非常に希望が見えた取り組みだなということで、早速、鴨川でもやる価値はあると思います。しかも、きちんとした単価が取れるというのが大きな点かなと思いました。

これが白馬の、冬はスキー場になるのですが、このスキー場のところに、こういうふうなマウンテンバイクの練習場が作ってあるんですね。こういうのは結構大きくて、ここで皆練習してからダウンヒルという、これかなり高度なもので、怪我したりするリスクもあるのですが、ダウンヒルコース、スキーではなく自転車ですっと下っていく。その練習コースがつくってありまして、ここで練習した人たちが、ダウンヒルの初級、中級、さらに上級、とんでもない起伏のあるコースなんですけど、これは相当金がかかっている。こういうのも同じものを整備してもしようがないですが、お金を掛けずにしても、結構やれることはあるのでないかと私たちは思ったところです。

白馬村の梅池というところをご存じですか。梅池高原というところに「アミダス」という設備がある。これはフランスの会社がやっております、実は漁師さん、漁網の技術を使ったアトラクションなんです。中がどうなっているかというと、漁網なんです。階層構造になっていて、1階毎、遊び場みたいな感じで整備されている。私はこれを見たときに、鴨川市は漁業の街ですし、地元の文化とか技術をこういう遊びに生かしている。これをやるのに1人2,000円ぐらい取られる。かなり子供たちも、大人も楽しめる施設だと思いました。

ただ、建設費を聞いたら、これはちょっと難しいなと思いましたが、1億円だそうです。だけど、この規模は相当でかい。小さい盤であれば、ちょっとおもしろいのではないかなと思いました。こういうのが鴨川にあっても、ちなみにこれ、冬は使っているんですかと聞いたら、冬も営業しているそうです。相当丈夫な網です。冬は除雪しながらやると言っていました。

これはスノーピークという新潟に本社があるアウトドアメーカーが白馬村に作ったステーションなんですけど、この中にスターバックスですとか、ミシュランのレストランとか入っているのですが、ここを発着とするガイドがつかないバイクツアーがありまして、それに参加してまいりました。

こちらにも特別なところに寄る訳ではなく、例えば途中で水を汲むんです。汲んだ水で、スノーピーク製品のCMにもなっているので、スノーピーク製品でコーヒーを沸かして、しかもスターバックスのコーヒー豆を使って、これを沸かして飲む。そしてサンドウィッチを食べるという、本当に単純なツアーなんですけど、こういうような取り組みです。これも特別な場所に寄る訳ではない。田んぼの中を走ったり、それぐらいです。ちなみに1人7,000円です。製品のPRになってますから、これで買ってくれば、それでスノーピークとしては万々歳なんです。そういった取り組みを見て、鴨川でも十分できるなというのはメンバー一同思ったところです。

今後の課題と展開ということで最後にまとめさせていただきますが、重要なポイントとして、今考えておりますのが事業の分類・整理をしていかなければいけない。ここの資料で言いますと、最後の10、11ページになりますが、先ほど申し上げたように我々いろんな

種類の事業をやっていかなければならないスポーツコミッションという組織です。その中には公益性の高いものもあれば、収益性の高いものもある。それをしっかり整理していきませんか、自走、自走と言っても、一緒に自走というのを語るのは危険だと思っています。

その上で公益事業、収益事業の財源のバランスを確保していきたい。効率性の高い事業というのは行政との連携が必要になってまいります。ただし自走というのみに限っては自主事業もしっかりしていかなければならない。このバランスをどう確保していくのか。また自主事業という点においてはツアー・プログラム、先ほどの自転車ツアーとか、そういったものを通年型、常設型の商品造成をして販売促進、この販売促進の部分については観光プラットフォームですとか、また市内のホテルさんですとか、あるいは旅行代理店、そういう相手の方々としっかり連携して、餅屋は餅屋で、販売が得意な方が別にいらっしますので、そこに我々は研究所みたいなところを作って、そこにおろしていくというような関係性というのが一番いいのではないかと考えております。

今行っている事業、公益事業、収益事業、実際分けていきますと、例えば指定管理者制度に関わるものですか、大会・合宿誘致、また地域の健康増進、こういったものはどちらかと言うと公益事業、公益性の高い事業ということになりますので、財源ということで言えば行政との連携、補助、助成金、そういうものをさらに成果報酬型委託制度というものの、ソーシャル・インパクト・ボンドという制度がありますが、そういったものを使って、行政と連携してやっていくということも手法として有かなと思います。

それに対して、収益事業、自主事業収入を主とするものとしては、これから商品造成していきたい、サイクル・アウトドアツアー・プログラムとかレンタサイクル、また外部の団体さんがツアー・プログラムを組むときの、それをサポートしていく事業というのも今後は増えると思う。あとはマリンビーチスポーツとかサーフィンの体験プログラム、こういったものを地元の方と連携して自主事業にしていきたいということで、今のところ定義されるところかなと思います。

我々、地域スポーツコミッション、ウェルネススポーツ鴨川の中ではスポーツの差別化というのが必要かなと思います。実際やるとすれば、一つは「見える化」をしてきたいということで、どうしてもスポーツですとか健康の取り組みは定点ビジュアル部分で終わってしまう部分が多い。例えば「スポーツやって気持ちよかった、何となく心が、健康になる」。そうじゃなくて、定量的評価を加える、先ほど言った数値加点とか、そういったものに加えることで実感がさらに高まって、継続へのモチベーションにつながっていくのではないかと考えております。そして、さらに数値、例えば長期管理ですとか、そういったものを商品に記載していく、これも一つの特徴になるのではないかな。

2番目としては、スポーツの苦手な方にどれだけスポーツに触れていただくか。そういった意味でスポーツという言葉を前面に出さないアプローチが必要かなと考えております。さらにスポーツによる地域課題解決、草刈りの取り組みとかもスポーツですが、スポーツの楽しさを加えることで地域課題を楽しく解決していきたいと考えます。

新しくスポーツ庁長官になった室伏長官が就任会見の中で、これとほとんど同じことをおっしゃっております。国もこれからスポーツによる課題解決に挑戦していきたいということを語っていますので、我々の考え方とか利用施策との方向施策が合致しているのでは

ないかというふうに見ております。

重点的に5つの事業を取り上げてみたのですが、一つは指定管理にかかわるロードマップ。そして、大会・合宿誘致を闇雲にやるのではなく、これからそれがどうあるべきなのか、どういう仕事をターゲットとすべきなのかということを積極的に考えた誘致活動をしていきたい。

さらに先ほど来申し上げている通年型・常設型のサイクル・アウトドアツアー・プログラムをしっかり確立させたいと思います。また、マリン・ビーチスポーツというものを振興する。これは鴨川としても大きなことだと思います。

そして、地域の基盤となる地域の健康というものを推進していく。こういった5つの事業が我々ウェルネススポーツ鴨川として、またスポーツによる地域活性化取り組みでやろうと言っているのが見えてきている状況になってきております。

最後に、来年度以降を見越したときに考えておりますのが、インナー政策の強化を考えております。ここまでは集客システムですとか大会・合宿ですとか、どちらかと言うとアウトター、外の方をどうやってスポーツで呼び込んで地域に稼ぐ力をつけるかということを考えていたのが、やはり、地域の人たちが健康で、地域社会が健全でなければ、恐らく持続可能なものにはなかなかならないということがありますので、来年度以降、それに加えてインナー政策、スポーツと健康と教育、さらに食とICTといったものを加えて、インナー政策の強化をもう一つ加えていきたい。

このアウトター政策とインナー政策、両輪を持って将来できれば、先ほど来申し上げているウェルネスシティ鴨川の実現、それが実現されれば、恐らく鴨川発の先駆的な地方創生モデルができて上がるのではないかと考えておりますので、そこに向けぜひ市と協力しながら地域スポーツコミッションとしての活動をこれからも展開していきたいと思っています。

ちょっと長くご説明しましたけれども、報告と今後の展望について私のほうからご説明させていただきました。よろしくお願いいたします。

○花山委員長 ただ今の事務局の説明につきまして、ご質問がございましたら、お願いしたいと思います。

○鈴木健史委員 実は南房総観光連盟でサイクルに注目して活動しているが、2年前でしたか、茨城の県庁に行っているいろいろお話を伺って参りました。そこで、いろいろとやっているが収益は赤字だというような話がありましたものですから、公益部門と収益部門と説明されましたが、収益部門で、彼らがどうして赤字なのかと、それをどういうふうにしていったら良いのかということをやはり、みたほうが良いのかなと思います。

○花山委員長 それは課題という事になりますか。

○鈴木健史委員 そうですね。事務局のほうで、お答え出来れば。

○一般社団法人・ウェルネススポーツ鴨川・岡野 はい、そうですね。今のご意見は同感で

して、サイクル事業は必ずしも上手くいっているところは少ないと思います。ひじょうに採算性を取るのには難しい事業で、レンタサイクルは、手間ばかりかかって、儲からないです。貸しても3千円～4千円ですと人件費も出ないです。北海道にサイクルツアーで採算を取っている団体があります。その代表は元行政の人間なんですけれども、5年かけて収益化したという会社があって、その方がおっしゃっていたのは、付加価値をどのように付けて売るか、レンタサイクル単体ではなく、付加価値として、例えば魅力的なガイドで、しっかりとやっていく。そうすると1回目は若干高いかなと思われるが、安く感じるように、そこを追求できないと、サイクル事業はなかなか難しいかなと。茨城の例は、レンタサイクルの拠点整備事業に注力をしていると思うので、採算性は難しいかなと思います。

○鈴木健史委員 はい。分かりました。

○花山委員長 他に何かございますか。

〔「特になし」の声あり〕

(2) その他

○花山委員長 無いようでございますので、議件の(2)、その他についてを議題いたします。事務局から、何かありますか。

○事務局・鈴木 特にございません。

○花山委員長 その他、皆様から何かございますか。

〔「特になし」の声あり〕

5. 意見交換

○花山委員長 では、無いようでございますので、最後、意見交換に入ります。スポーツを活かした取り組みについて、ご意見などがありましたら、この際ですので、お願いします

〔「特になし」の声あり〕

○花山委員長 なければ、この辺で議長を降ろさせていただきます。スムーズな議事進行に、ご協力を賜り、ありがとうございました。

6. 閉 会

○司会 花山委員長ありがとうございました。委員皆様も本日は長時間にわたりまして、ありがとうございました。

以上をもちまして本日の全ての日程を終了させていただきます。

(1 5 : 0 5 終了)

鴨川市附属機関等の会議の公開に関する実施要領第7条第3条の規定により、会議録の確認をしました。

令和2年11月16日

会議録署名人 島 田 誠 一